

正信偈念佛和讚  
全

特71

640

300944-000-3

特71-640

正信偈念佛和讚

田中忠藏/校

M24.1

ABA-0043



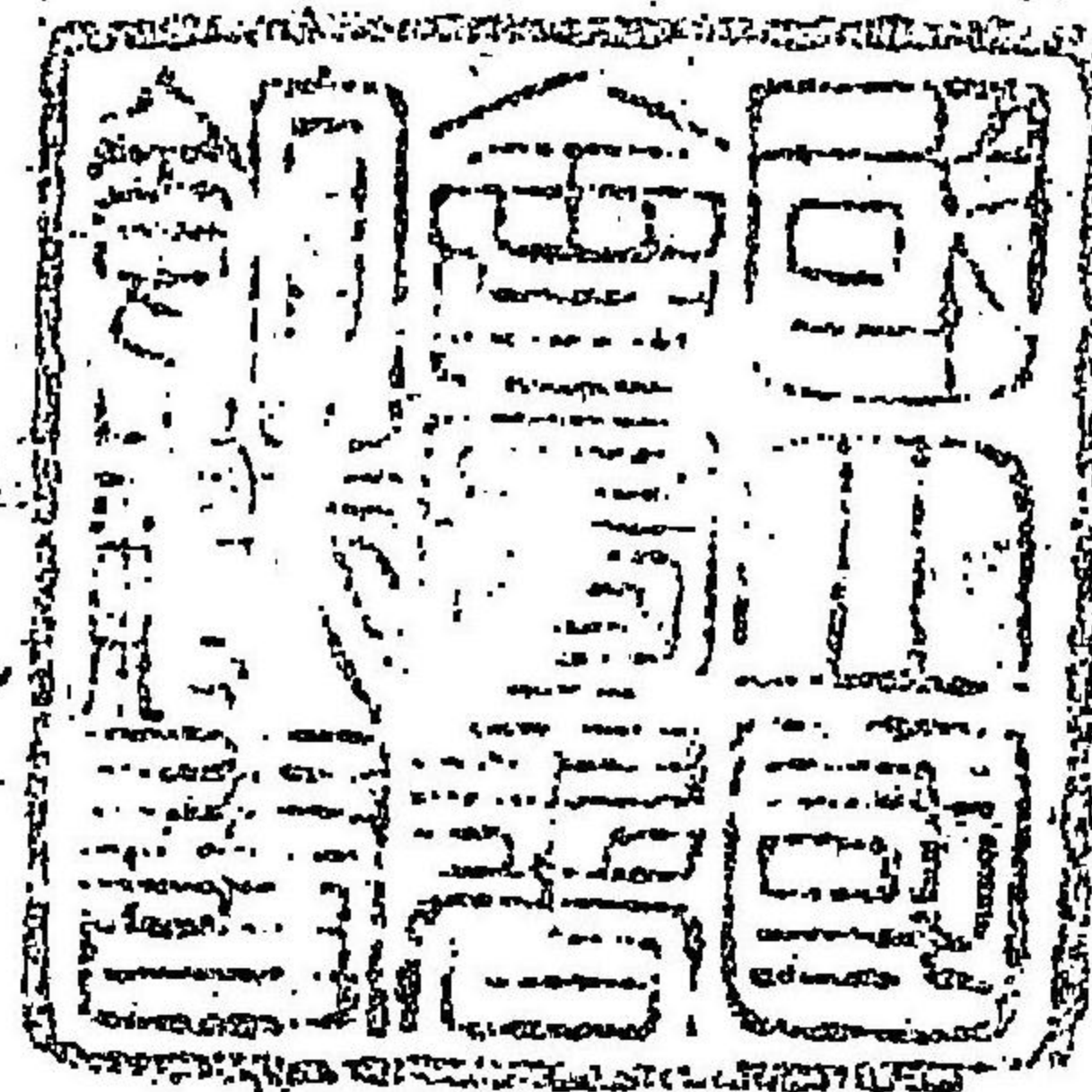
正信傳念佛和讚 全

特 71  
640

在	法	雨	歸
世	藏	光	命
自	普	不	无
在	薩	可	量
王	回	思	壽
佛	位	議	如
所	時	光	



特  
640



52. 6. 2  
77W20228

觀見諸佛淨土因  
國土人天之善惡  
建立无上殊勝願  
超發希有大弘誓  
五劫思惟之攝受  
重誓名聲聞十方  
普放无量无边光  
无碍无對光炎王

清淨歡喜智慧光  
不斷難思無稱光  
超日月光照塵刹  
一切羣生蒙光照

本願名號正定業  
至心信樂願爲因  
成等覺證大涅槃  
必至滅度願成就

如來所以興出世  
唯說彌陀本願海  
五濁惡時羣生海  
應信如來如實言

能發一念喜愛心  
不斷煩惱得涅槃  
凡聖逆謗齊迴人  
如衆水入海一味

攝取心光常照護  
已能雖破无明闇  
貪愛瞋僧之雲霧  
常覆真實信心天  
譬如日光覆雲霧  
雲霧之下明无闇  
獲信見敬大慶喜  
卽橫超截五惡趣

難信邪彌 是佛聞一  
中樂受持甚以難 是人言廣大勝解者  
之受持甚以難 人名分隨利華  
難无過斯 邪見憍慢惡衆生 佛本願念佛  
一切善惡凡夫人 聞信如來弘誓願



印度西天之論家  
中夏日域之高僧  
顯大聖興世正意  
明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山  
爲衆告命南天竺  
龍樹大士出於世  
悉能摧破有牙見

宣說大乘无上法  
證歡喜地生安樂  
顯示難行陸路苦  
信樂易行水道樂  
憶念弥陀佛本願  
自然卽時人必定  
唯能常稱如來號  
應報大悲弘誓恩

天親菩薩造論說  
歸命无碍光如来  
依修多羅顯真實  
光闡横超大誓願  
廣由本願力廻向  
為度羣生彰一心  
歸人功德大寶海  
必獲人大會衆數

得至蓮華藏世  
即證真如法性身  
遊煩惱林現神通  
人生死齒示應化

本師曇鸞梁天子  
常向鸞處菩薩禮  
三藏流支授淨教  
焚燒仙經歸樂邦

天親菩薩論註解  
報土回果顯誓願  
往還廻向由他力  
正定之回唯信心  
惑染凡夫信心發  
證知生死卽涅槃  
必至无量光明土  
諸有衆生皆普化

道 綽 決 聖 道 難 證  
唯 明 淨 土 可 通 入  
萬 善 自 力 敗 勤 修  
圓 滿 德 號 勸 專 稱  
三 不 三 信 誨 慇 懃  
像 末 法 滅 同 悲 引  
一 生 造 惡 值 弘 誓  
至 安 養 界 證 妙 果

善導獨明佛正意  
矜哀定散與逆惡  
光明名號顯曰緣  
闕入本願大智海  
行者正受金剛心  
慶喜一念相應後  
與韋提等獲三忍  
卽證法性之常樂

源信廣開一代教  
徧歸安養勸一切  
專雜執心判淺深  
報化二土正辨立  
極重惡人唯稱佛  
我亦在彼攝取中  
煩惱彰眼雖不見  
大悲无倦常照我



本師源空明佛教  
憐愍善惡凡夫人  
真宗教證興片州  
選擇本願弘惡世  
還來生死輪轉家  
決以疑情爲所止  
速入寂靜无爲樂  
必以信心爲能入



一 彌陀成佛のこのかた

いままゝ十劫とへまへり

法身の光輪きつもま

下世の盲冥がとらざら

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

智慧の光明をうりま

有量の諸相ごとく

光曜かまらぬものな

上眞實明に歸命せよ

● 南无阿弥陀仏

● 南无阿弥陀仏

● 南无阿弥陀仏

● 南无阿弥陀仏

● 南无阿弥陀仏

● 南无阿弥陀仏

南无阿弥陀佛  
 南无阿弥陀如来  
 南无阿彌陀佛  
 南无阿彌陀佛

解脱の光輪きいもたし

光觸かふるもののみあ

有光とをなるとのぞきま

上平等覺よ歸命せよ

南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>仙<sup>一</sup>  
 南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>仙<sup>一</sup>  
 南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>仙<sup>一</sup>  
 南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>仙<sup>一</sup>  
 南<sup>ニ</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>ニ</sup>彌<sup>一</sup>陀<sup>ニ</sup>仙<sup>一</sup>

光<sup>クワウ</sup>雲<sup>ウン</sup>无<sup>ム</sup>尋<sup>ジン</sup>如<sup>ニ</sup>虚<sup>コ</sup>空<sup>クウ</sup>

一切<sup>イツキツ</sup>の有<sup>ユ</sup>尋<sup>ジン</sup>ふ<sup>フ</sup>さ<sup>サ</sup>ら<sup>ラ</sup>の<sup>ノ</sup>形<sup>カタチ</sup>

光<sup>クワウ</sup>澤<sup>タク</sup>か<sup>カ</sup>ふ<sup>フ</sup>ら<sup>ラ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>る<sup>ル</sup>の<sup>ノ</sup>を<sup>ヲ</sup>を<sup>ヲ</sup>ん<sup>ン</sup>

上<sup>ウエ</sup>難<sup>ナン</sup>思<sup>シ</sup>議<sup>ギ</sup>を<sup>ヲ</sup>歸<sup>キ</sup>命<sup>メイ</sup>せ<sup>セ</sup>よ

● 南<sup>二</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>二</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>三</sup>

● 南<sup>二</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>二</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>

● 一重 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>弥<sup>三</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>三</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>三</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>三</sup>仙<sup>一</sup>

● 南<sup>一</sup>无<sup>一</sup>阿<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>陀<sup>一</sup>仙<sup>一</sup>

清淨光明あまらびなす

遇斯光のゆるみぬきを

一切の業繫ものぞこすぬ

下 畢竟依を歸命せよ

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏



佛ブツ光クワウ照シュウ曜ヨウ寂シツ第ダイ一イチ

光クワウ炎エン王オウ佛ブツとトあアつツけケたタまマ

三サン塗ツのノ黒クワク闇アンひヒらラくクなナり

中ナカ大ダイ應オウ供コウ女ニョ歸キ命メイせセよ

往オウ同ドウ平ヘイ願ガン以イ此シ功コウ德トク  
生セイ發ハツ等トウ施シ一イチ切セツ  
安アン菩ブツ提テイ心シン切セツ  
樂ラク提テイ心シン切セツ  
國クニ心シン切セツ

・リニキ

二道ニミチ光明クワウミョウ朗朗ラウラウ超絶チョウゼツセリ

清淨シヨウジヨウ光佛クワフツとまうす

ひとたび光クワ照シヨウかふるりの

業垢ゲウコウとのごとく解脱ゲツトクと

慈光ジクワウをるわふるむらじ

ひうとれらるるむらじ

法喜ホフキとうとそのがたま

中ナカ大安慰ダウアンイ才サイ歸命キメイせ

无明むみやうの闇やみを破やぶするゆへ

入いれ智慧ちゐ光佛くわうぶつとあつけり

一切いっせつ諸佛しよぶつ三乘さんじやう衆しゆ

ニともにともに嘆譽たんごあたまへり

光明くわうみやうてらてらしたるを

入いれ不斷ふたん光佛くわうぶつとあつけり

聞きこ光力くわうりきのゆくまきた

上うへ心こころ不斷ふたんにて往生じやうじやうも

佛光測量よきゆふ

難思光佛とまづひる

諸佛の往生嘆どつ

下險危の功德と稱せむ

神光の離想とまづひる

无稱光佛とまづひる

目光成佛のひるりなを

中諸佛の嘆どつひる

二 光明くわうめい 日月にげつ 日勝過にちしょうと して

超あま 日月光にげつこう とあづけらる

釋迦しやくぢあ 僕ぼく とあまざうんを

正ただ 无等むとう 等寺とうじ と 歸命きめい せよ

彌陀やだ 初會しよゑ の聖衆しょうじゆ ハ

算數さんすう のおよぶことぞかる

淨土じゆんと と糸いと がらんひとみる

下した 廣大會くわうたいゑ 茲こゝ 歸命きめい せよ

安樂無量の大菩薩

一生補處にいつるなり

普賢の徳に歸してこそ

穢國をかあらむと化するあり

十方衆生のためにとて

如來の法藏あめりてぞ

本願弘誓に歸せしむる

中大心海に歸命せよ

觀音勢至も後ともふ

慈光世界と照曜

有縁哉度してさうする

下休息あることさうする

安樂淨土にいらるを

五濁惡世おかしらる

釋迦牟尼佛のまゝにて

下利益衆生にまゐる中

一神が自在なること

測量とつてんことを

不思議の徳とあつた

上無上尊が歸命せよ

安樂聲聞菩薩衆

人天智慧をくわに

身に相莊嚴するおや

中他方に順じて名とつぬ



顔容端政たぐひあり

精微妙軀非人天

虚无之身无極體

在平等カと歸命せよ

安樂國が祿ぐふひと

正定聚にこそ住さう

邪定不定聚くふま

上諸佛讚嘆したま

十方諸有の衆生ハ

阿彌陀至徳の御名を

眞實信心しつゝを

空おんきふ所聞を慶喜せん

若不生者のちういゆ

信樂まことにとん

一念慶喜をとるひと

中往生かるむとまらぬ

安樂佛土の依正と

法藏願力のあせらるる

天上天下にたぐひぬ

中大心力が歸命せよ

安樂國土の莊嚴へ

釋迦牟尼のあこむ

とくともつたとのあこむ

上无稱佛を歸命せよ

己今當の往生も

この土の衆生のところへ

十方佛土よりきこる

主无量无数不可計あり

阿彌陀佛の御名を

歡喜讚仰せしむる

功德の實は具足し

下一念大利无上なり

たとも大千世界は

みじからん火ともたゆまじ

佛の御名おきくひら

もぐく不退かちり

神力无極の阿弥陀

无量の諸佛不めたまふ

東方恒沙の佛國より

中 无数の菩薩めくまふ

自餘の九方の佛國も

菩薩の往觀みるかな

釋迦牟尼如來偈とて

中 无量の功德とめられたまふ

十方の无量菩薩衆

徳本うへんたりふとて

恭敬とてし歌嘖を

中 みるひと波女伽皮女と歸命せよ

七寶講堂道場樹

方便化身の淨土あり

十方來生きぬるなり

講堂道場礼とく

妙土廣大超數限

本願莊嚴よろこぶ

清淨大攝受す

千劫首首歸命せむべし

自利利他圓滿

歸命方便巧莊嚴

不可思議尊

中不可思議尊

神力本願及滿足

明了堅固究竟願

慈悲方便不思議

中真无量妙歸命



御初夜

●五び十じゅう六ろく億いっぴやく七しち千せん萬まん

彌えい勒りやく菩ぼ薩さついいととししととへへん

ままここのの信しん心しんららるるひひととらら

このこのいいままののいいままののいいまま

念ねん佛ぶつ往わう生じやうのの願げんにによよりり

等とう正しやう覺かくににいいたたるるひひとと

ととままののいいままののいいままののいいまま

大だい般ぱん涅ねつ槃ぱんををととららるるひひとと

眞實信心しんじんのゆるゆるゆるゆる

となくもち定聚ぢやうくの入ぬまじりいりぬまじり

補處ほしよの彌勤みやうにおるおることこと

无上むじやう覺かくををととここららああららずず

像法ざうぽうののととららのの智人ちじんもも

自力じりきに諸教しよくわうににおおままりり

時機とき相應さうおうの法ぽうををれれどど

念佛にぶつ門もんににぞぞららりりたまたまふふ

彌陀の尊號をなす

信樂まことなるを

憶念の心は祇まして

佛恩報むるありあり

五濁惡世の有情の

選擇本願信ぶるを

不可稱不可説不可思議の

功德へ行者は身ぶるを

明表

●本師龍樹菩薩ハ

智度十住毘婆沙等

はくまておろく西とほめ

とて念佛せしめり

南天竺に比企あらん

龍樹菩薩とおぼし

有無の邪見と破と

世尊はうゑておぼし

本師龍樹菩薩

大乗无上の法とて

觀喜地と證して

念佛とて

龍樹大士世の

難行易行の道

流轉廻の

弘誓の

本師龍樹菩薩の

おしとてはくせんとい

本願心にけしめて

は称又弥陀と稱し

不退れくおとみお

多んおおんひん

恭敬の心に執持し

弥陀の名を稱し

●南无阿弥陀佛の廻向の

恩徳廣大不思議

往相廻向乃利益

還相廻向亦廻入せり

往相廻向の大慈

還相廻向は大悲

如來乃廻向あり

淨土の菩提の

彌陀觀音大勢至

大願のまじり小乘しんぞ

生死はらみはらうまはら

有情はよるうとのまはら

彌陀大悲の誓願哉

ふく信せんらみあ

糸くもくもく入たてり

南无阿彌陀佛とてり



他力に信心するは

うのまじらぬおぼえに

とまじらぬが親友を

教主世尊はあなま

如來大悲の恩徳へ

身代粉りしとも報どし

師王知識乃恩徳も

あひまじらぬ謝す

改悔文

もろくくの雑行雑修自  
カレと多とふとて一心に  
阿彌陀如来我等が今度  
の一大事の後生御と  
候へとたれとて候

たのむ一念りとした往生一定  
御助け治定とぞん  
の称名の御恩報謝とぞん  
す為とて候との御と  
り聴聞とて候と  
御開山聖人御出世に御恩

次第相兼の善知識の御  
御勸化御思あつて候  
候このうらまへに  
御おまきと一期おか  
まのうらまへに候

未代无智の在家止任の男女たらん  
とむかへて候て何弥陀  
佛ふられたのまはつて以餘の  
余後とらば一心一向は佛な  
まうせん衆生なる罪業ハ深重なり  
やまへりす弥陀如来の御

下これにまゝ第十八の念佛往生の誓願  
此のちかひかへるごとく決定と託すべし  
稱するをいふなりちのちのちとんまの  
稱名念佛と念ふなりとのめをかく  
それハ万法法藏とまゝのつとも後世

きこざる人々愚者といふこと一文不知の  
凡人道あることども後世に考は智者  
とすべしとんまの當流のいひのめ  
からいひのめくは聖教といふものなり  
たうとんまの一念の信はるるなり  
まゝ人といふこと事なるなり

聖人の御ことばも一切は男女だん身の  
弥陀は本願を信じてんたなる  
とていふならんはあはれなること  
ゆふらうなる女人ありとていふもなうの  
雑行とていふ一念も弥陀如来今度の  
後生たすけられたまはさうたの申え

人は百人もあつても弥陀の誓  
に往生とていふ事とていふこと  
うごかすのたうあはれとてい

在家は尼女房だん身の事  
も形く一心一向小阿弥陀佛とてい

まのちかて後生きたまはせんと申せん  
人ぞまかく御んまひあるべし相のい  
とていふまゝにうらむのほおかくあまうん  
これとまらち弥陀如来に御ちういの他力  
本願と申せうこのうまを後生と  
たてまつるべしとてあつていふべし

思ひたう南无阿弥陀佛ノノと  
とていふまゝのあつていふべし

抑男子も女人も罪のあつていふべし  
諸佛の悲願となのともまはれ時分の  
未代悪世のれが諸佛の御ちうに申せん

かまふざる時あり是ゆゑに阿彌陀如來  
と申奉るる諸佛おまごれて十惡五逆の  
罪人となりぬまじけんといふ大願とおどし  
まししく阿彌陀佛とあり給ふこそれ  
佛ともくたのこて一念御まけ候へ申  
えん衆生となりぬまじけん正覺ありしと

ちんじま一はんに弥陀の如來等が極  
樂に往生せんこと要ふことなき此  
ゆゑ一心一向は阿彌陀如來なり給  
ふことなきことなき信じて我身の  
罪のちんじま事となりて佛おまごせ  
ばんせし一念の信心ありてはんじま

十人八十人百千人百人百人百人  
淨土は往生さるゝ事なれば  
これらもなしくたうか  
らん心のおきん  
くときもいふ所  
念佛申す  
佛息報謝の

念佛と申すのまかしく

信心獲得と云ふ第十八の願  
まことの願と云ふ  
のまこと  
命する一念は



あまじつてまじつてまじつて  
廻向まげ—まじつてまじつてまじつて  
ハ今諸衆生功徳成就こうとくじゆうじゆとまひつて  
无始むし以來いらいはくつとつくる惡業煩惱あくごふんのこ  
ろころもたたく願力がんりき不思議ふしぎのりやく消しょう  
滅めつするいふまじつてまじつて正定聚不退しやうぢやうしゆふたひのこ

あま住ぢゆういふまじつてまじつて煩悩ぼんごう斷たんず  
まじつて纏ぢん繋けいするいふまじつてまじつて此義こぎ  
當流たうりゆう一途いつとの明談めいだんするいふまじつて他願たがんの余あま  
對たいしてかくれまじつて沙汰さたのまじつて明めいの  
能よくまじつてまじつてまじつてまじつて

聖人一流の御勸化にありしは信心なる  
りて本とせしは供その由りなりし  
雑行とあびせし一心は弥陀に歸命と  
しむ不可思議の願力とて佛のうへ  
より往生の治定せし是なるをそのおを  
一念發起入正定三聚とは釋しそのうへ  
稱名念佛ハ如來こそ往生とてあな  
し御恩報盡の念佛とてそのうへ  
あふりし

抑當流の他方信心はあつてもいふ  
聞しく決定せしむる人々をその信心

通<sup>とほ</sup>りて心<sup>こころ</sup>底<sup>そこ</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>他<sup>た</sup>宗<sup>そう</sup>他<sup>た</sup>人<sup>にん</sup>  
對<sup>たい</sup>して<sup>して</sup>沙<sup>さ</sup>汰<sup>た</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>路<sup>ろ</sup>次<sup>じ</sup>大<sup>だい</sup>道<sup>どう</sup>是<sup>こゝ</sup>れ  
く<sup>く</sup>在<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>所<sup>ところ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>  
これ<sup>これ</sup>を<sup>を</sup>讚<sup>さん</sup>嘆<sup>たん</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>所<sup>ところ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>  
に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>  
に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>事<sup>こと</sup>

欠

MISSING

諸神諸佛菩薩などもあつてもまじはる  
まじはる南无阿弥陀佛の六字供えらる  
あつてもあつても外も王法もつこ  
おもひに内心も他方の信心もあつて  
世間の仁義もつて本心もつてあつて  
あつてもあつてもあつてもあつても

あつていふべきことのあらうと

文明六年二月十日書之

抑毎月兩度乃寄合の由來の  
なをぞとすよとて他のいふゆへ  
自身に往生極樂乃信心獲得の

いふはつとゆるあつていふゆへに  
いふおしふるまでも毎月まげちの寄合と  
いふはつとゆるあつていふゆへに  
いふおしふるまでも毎月まげちの寄合と  
いふはつとゆるあつていふゆへに  
いふおしふるまでも毎月まげちの寄合と  
いふはつとゆるあつていふゆへに  
いふおしふるまでも毎月まげちの寄合と

寄合のときを酒飯茶ねん

をうのこをみまへ 退散せよこれ  
佛法の本意を志すべからざる次第  
ありしもの不信の面々の一段の不審  
もたてて信心は有光と佛法を志す  
べき所なる所の詮も如く退散せよ  
祭事などかぐべおがむをんごのぬき

思案ごめぐるは見えことあり 所詮  
自今已後またいふの不信の面々の  
たぐひも信心は讚嘆あるべしと  
要あり  
そと當流の安心はともむえとらる  
あまのちみこが身の罪障のあつた

まじげんをなすへの雑行のこころ  
やえて一心に阿彌陀如來に歸命して  
今度の一大事な後生たすめんと  
あくたのまん衆生ごころなま  
たまふたてとてまじげんをなす  
まじげんかたてとてまじげんをなす

まじげん百即百生あるがまじげん  
にとも毎月の寄合おこしして報恩  
謝徳のたまふことあるを直に  
信心と具足せしめたる行者なるまじ  
げんをなすことあり

明應七年二月廿五日書之



毎月兩度講衆中へ

八十四歳

夫人間の浮生ある相とつらく観じたる  
お不ようそえのあはれものこの世の始中終  
は母ののどくある一期ありこれハハハ

万歳の人身がらみからして事とまはす  
一生まよやわたり一まはりまはり  
たまふ百年は形骸たるもの世の  
そだ人やまはりけふもあはれもの  
あはれとくればなれ人まはりの  
まはり露よりのまはり

朝あさの紅くわん顔がんありて夕ゆふの白はく骨こつとるる  
身みちのこども無む常じょうは風かぜさうりぬ  
あまのちよるのまふこちちまらふ  
むらさきのなぐたえぬまら紅くわん顔がん  
よく變かじて桃もも李りはよほいとく  
あつたは六ろく親しん眷けん属ぞくありてむげき

かみあめども雨あめふその甲かみ斐ひゆめん  
まじもらむ事ことあつぬとく野の外がわ  
おとろり夜よ半はんはけりくとあし  
ぬまのたぶ白はく骨こつのむねに  
中ちゆうしとろりなうりて人間にんげんのくち  
事ことの老らう少せう不ふ定ていのさういあをこれのふ

そやう後生の一大事な心なげし阿弥  
陀佛とふくたのこまのしせき念佛  
はうとるをわらわのあまうしとく

抑當國攝州東成郡生王の庄内  
大坂といふ在所へ往古よりいある

約束のいのけらるゝんぬる明應第五の  
秋下旬にのろりからんあまうしとる  
在所にみまうしとるあまうしとる  
一字の坊舎を建てしとる當年の  
とるぬ三年に歳器とるぬ  
すまうしとる往昔の宿縁のむかひとる

形かたちとかたちおびへんをんつらぬそんつるんの  
在所しよ不ふ居住きよじゆせしむる根元こんげんかのみまらふ生なま  
涯えんとあつらふかきくすじ榮えい花か榮えい耀えい光くわう  
これをまじり花鳥かきう風月ふうげつももころもあは  
あふれ無む上じやう菩提ぼだいのたぢらふ信心しんじん決定けつぎの  
行者ぎやうも敏みん赤せき目めせしめ念ねん佛ぶつとをまじりえ

おまへへも出来できせしむるかたひるまの  
おのへ一念いちげんせしむるはなはたせしむる  
かたひるまの世間よこのへんをへんも偏執へんしやくの  
かたひるまのせしむる題目だいぎあへん  
出来できあへんせしむるはなはたせしむる  
よと執しやく公こうのへんをへんせしむる題目だいぎ

ものちうこりばらへていそへ貴殿道徳  
多しを内金剛堅固乃信心と決定せしめん  
あままたる弥陀如来に本願示あひてあま  
別してふ聖人の御本意のたふあつた  
もの教とてあつて愚老といひて當年  
八十四歳まで存命せしむる条不思議

まよふ當流法義にふあひかき入教に  
あひて本望のらつてあまふにふんか  
りの教あつたを愚老當年比夏ころより  
凌例せしめてあまふに本復のい  
これ取しはらふに當年寒中ころあつた  
往生の本懐とてあまふに条一定とあまふ

へんぐりあるましく存命のうちあましく  
 信心決定ちまかへ朝夕あはひはんぐさ  
 まこと宿善まるとおひらひら決懐の  
 ころはまがむるをかたしあへんまへん  
 在所ふ三年比居住とあるその甲斐を  
 ありぐりいぢりぬまへんひの十七日

文六十七

報恩誦りくらふとて信心決定ありて  
 我人一同不在生極樂に本意へあま

へまへんぬものまにあひありて  
 明應七年十一月廿一日よりあて

こまへんぬものまにあひありて  
 念ふことのあはし

抑今月廿八日の報恩誨の昔年より此  
流例よりこれおよりて近國遠國の  
門葉報恩謝徳乃懇志こころよ  
ごころあり二六時中社称名念佛舎  
退轉おしこれよまらう開山聖人の法流

一天四海の觀他地類もあつらへしごと  
とて法をもちつるものゆへふと晝夜は時節お  
あひあつらふ法不信の根機おとつら  
往生浄土の信心獲得せしむるはあつら  
これちうちう今彫聖人の御正心は  
報恩たるべしちうちうとてあつらふ

よいつて報恩謝徳の心なり  
けりとの欲てはふつてはまじき事  
念佛者と号するまじき事  
當流の安心決定をたもてし  
各聞あつてはむお報謝する  
としの風情をたもてし

てらざる次第なりとの心なり  
万里の遠路と志のぞと莫太の辛勞  
ししく上洛のことなり  
各聞しては心の中へ住して口惜  
次第小あはれやとる不足の所を  
るに宿善の機あり



てふちん〜ふたにんかむるまむSは  
卷三の懺悔とす〜一心の正念  
おもも〜の聖人の御本意  
か〜の文

一諸國參詣のまよふ〜  
在所〜の大道大略又

関屋渡の船中〜  
〜の佛法方の次第と願案  
人ふ〜の事

一在所〜  
〜の法門と諸嘆  
〜の宗義〜あり〜名目

とまはる人々をいかにいかに  
俾察たり自今已後かく停止  
とまはる人のあり

「この七日日報息講中にて  
信心未定のものも  
今改悔戦悔の心とあこして

眞實信心と獲得  
一としてより我安心の心とあこして決定  
サレば余もあこして  
とまはる人々をいかにいかに  
まはる人々をいかにいかに  
あこしてあこしてあこしてあこして

かろしうしと當場といひなけんといふ  
人のところらう勿躰をえ次第るり心中と  
此こそまじうかろして眞實信心すのらう  
なれんことのみなり

一近羊佛法の棟梁なる坊主達我信  
心のまじうらうて不足と結句門徒同朋の

信心の決定とらめらう坊主の信心不疑の  
トとまじうらうて不足と結句門徒同朋の  
言語道断の次第なるらうに後いふ  
師弟とらふ一味の安心に任す事  
坊主分の人ちらうて不足と結句門徒同朋の  
トとまじうらうて不足と結句門徒同朋の  
言語道断なる

べうじぎる次第さつちあをさる酒の  
人々停止するところの寺佛法  
はけ門徒の重杯の飲を  
さる醉狂の出来口を  
つらつらあつた坊主合の停止  
かみしるも興隆佛法

せんせんしんじん  
これら佛法の  
のしるも興隆佛法  
うへ豊稔あつたかの  
信心決定のしる細く同行の會  
せんあつた信心の沙汰あつた

一當流乃信心決定ことの身みのこころ  
南无阿弥陀佛なむあみだぶつの六字のまじり  
て念ふことごとく善導ぜんどう釋しやくてのらく  
言南无者即是歸命亦是發願廻向之  
義言阿弥陀佛者即是其行そのぎやうのこころ

三三〇

南无と衆生しゆじやうの彌陀みだ不歸命ふきめいとれ阿弥陀  
佛ぶつのそれ衆生しゆじやうとよくみるめとて万善まんぜん  
万行まんぎやう恒沙こんさの功德くつとくをまづつけたまふなり  
このころごとくまじり阿弥陀佛あみだぶつ是其行そのぎやうと  
いふまじりありこのゆへに南无なむと歸命きめいと  
機きと阿弥陀佛あみだぶつはまじり法ほふと法ほふと

一 躰（たう）を（を）と（と）ある（ある）として（して）機法（きほう）一躰（たう）此（こゝ）  
南无阿弥陀佛（なんぶあみだぶつ）とい（い）は（は）る（る）は（は）る（る）なる（なる）も（も）亦（また）  
阿弥陀佛（あみだぶつ）の（の）む（む）ら（ら）し（し）法藏比丘（ほふぞうしゆく）なり（なり）し（し）と（と）見（み）  
衆生佛（しゆじやうぶつ）なる（なる）も（も）亦（また）正覺（しやうがく）なり（なり）し（し）と（と）  
ち（ち）り（り）し（し）ま（ま）し（し）は（は）る（る）は（は）る（る）の（の）正覺（しやうがく）と（と）亦（また）成（なり）し（し）  
たま（たま）ひ（ひ）ま（ま）さ（さ）る（る）は（は）る（る）の（の）南无阿弥陀佛（なんぶあみだぶつ）

南无

ま（ま）り（り）し（し）ま（ま）さ（さ）る（る）は（は）る（る）の（の）南无阿弥陀佛（なんぶあみだぶつ）  
往生（しやうじやう）せ（せ）る（る）は（は）る（る）の（の）證（しやう）據（ぎょ）なり（なり）し（し）と（と）見（み）  
他（た）力（りき）の（の）信心（しんじん）獲得（くわくとく）し（し）と（と）亦（また）成（なり）し（し）と（と）見（み）  
六字（ろくじ）は（は）る（る）は（は）る（る）と（と）洛（らく）居（き）と（と）亦（また）成（なり）し（し）と（と）見（み）  
を（を）も（も）く（く）あ（あ）ら（ら）の（の）八条（はちじょう）北（きた）と（と）亦（また）成（なり）し（し）と（と）見（み）  
ある（ある）も（も）亦（また）成（なり）し（し）と（と）亦（また）成（なり）し（し）と（と）見（み）

と云ふの毎年の報恩講中にとりて  
面々各々随分信心決定のよう領納  
ありと云ふも昨日今日も亦も  
信心のともむた不同るらむと所詮  
なれたりの歎きと云ふも當年に  
報恩講中不みだりして不信心のとも

百廿七

が今月報恩講のつと早速お  
眞實信心を獲得あくる年を  
経らふも同篇たるごとくやうに  
たりと云ふらむと思ふ者が年々  
七旬のあゆみて來年の報恩講も  
期一がた身形あはれ冬も眞實





五	市	三	三	東	下	九	八	七	六
常	琢	宜	教	如	證	實	蓮	存	巧
如	如	如	如	如	如	如	如	如	如
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
遊	元	實	萬	應	遊	大	明	長	永
祿	文	文	道	食	天	聖	德	祿	享
七年	五年	五年	元年	九年	五年	二年	二年	元年	元年
五月	四月	五月	七月	正月	三月	二月	六月	六月	六月
廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日
九	六	七	天	夫	三	元	木	老	夫
達	乘	真	一	湛	廣	本	文	法	湛
如	如	如	如	如	如	如	如	如	如
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
遊	寶	延	元	寶	明	文	寶	寶	寶
慶	政	享	祿	政	治	政	政	政	政
元年	四年	元年	二年	元年	四年	九年	元年	元年	元年
十月	二月	十月	四月	十月	八月	十二月	六月	六月	六月
廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日	廿七日
八十六	四十九	六十三	五十二	五十二	七十二	四十九	五十二	八十三	二十七

明治廿四年一月五日印刷  
 同 年同月九日出版

發行兼校訂印刷者  
 京都府京都市室町通五條北入  
 阪東屋町廿五番戸平民  
 田中忠藏

